京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題
東アジアにおける阿弥陀如来の表象
The Representation of the Amitabha Tathagata in East Asia

2. 研究代表者氏名
高橋早紀子
Takahashi　Sakiko

3. 研究期間
2020年4月-2021年3月(1年目)

4. 研究目的
　西方極楽浄土の教主である阿弥陀如来は、大乗仏教の中心的な尊格である。阿弥陀如来に関する造形芸術は独尊形式や三尊形式の尊像、浄土変相図や来迎図と多様で、そこには阿弥陀如来に対する様々な思想や信仰の反映が考えられる。
　そこで本研究の目的は、東アジアにおける阿弥陀如来の表象についての考察を通じて、阿弥陀如来に対する多様な思想や信仰の一端を追究することにある。具体的には、中国や日本の作例を主な対象として阿弥陀如来の像容や極楽浄土の様相について検討し、図像上の特色や思想的背景に関する議論を深めることを目指す。
　日本・中国・西域・ガンダーラの美術史学や考古学を専門とする班員を中心に、広い視野から阿弥陀如来の造形芸術について考究する本研究には、分野横断的学際研究としての意義がある。さらに、当該分野の第一線で活躍する若手研究者の講演を計画する本研究班には、研究期間終了後にも持続可能な若手研究者の学術ネットワークを構築するという意義もある。

The Amitabha Tathagata, the ruler of the Western Pure Land, is one of the primary Buddhas of Mahayana Buddhism. The various artworks that have been created, such as the images of individual Amitabha or the Amitabha Triad, the representation of the Western Pure Land, and the image of the descent of Amitabha, all reflect various thoughts or expressions of faith in the Amitabha Tathagata. This research team seeks to investigate these various aspects of religious thought or faith by examining how the Amitabha Tathagata and the Western Pure Land have been represented in East Asia. For instance, we will hold two workshops and discuss the various iconographic and religious functions,

based on the differing imagery and representations of the Amitabha Tathagata and the Western Pure Land in China and Japan. This research team, including art historians and archaeologists who specialize in Gandhara, the Western Regions, China, and Japan, will also help advance interdisciplinary studies. .

5. 研究成果の概要

年度内に二回企画した研究討論会では、若手研究者によって東アジアにおける阿弥陀如来の表象に関する最新の調査・研究成果が発表され、約 60 名の参加者とともに多様な表象・思想・信仰について実りある討論を行うことができた。Zoom によるオンラインの公開研究会の実施には不安もあったが、全国各地・海外から多くの研究者の参加が得られ、充実した研究討論会となった。本研究討論会での成果を取り込んだ論文２件（山口隆介「兵庫・浄土寺裸形阿弥陀如来立像」『鹿園雑集』23、高橋早紀子「広隆寺講堂阿弥陀如来像の造像背景と道昌」『京都美術史学』2）が、年度内に刊行される予定である。また、本研究班の目指す持続可能な若手研究者の学術ネットワークの構築についても、二回の研究討論会の企画・実施を通して一定の成果が得られた。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度の研究成果公表計画として、高橋が広隆寺講堂阿弥陀如来像に関する研究内容を進展させ、広隆寺講堂地蔵菩薩・虚空蔵菩薩像に関する論文を執筆する計画である。また、今後の展開として、阿弥陀の印相の問題に焦点を当てた共同研究を構想している。本研究班の研究発表で施無畏与願印・説法印・定印・来迎印の作例が取り上げられたが、儀礼における機能の問題については今後の課題とする点も多く、本研究班を通じて形成した若手研究者の学術ネットワークを活用して共同研究の推進を図りたい。